

第2章

本県の食と農業・農村の動向

平成29年農業農村総生産額（県農政部推計）

平成29年の農業農村総生産額（推計）は3,083億円となり、前年と比べて34億円の減少（対前年比98.9%）となったものの、29年度の目標である3,050億円を超える結果となった。

これは、米は需給バランスが安定し価格が平成28年産を上回ったこと、果樹はオリジナル品種等への改植により単価が増加傾向になったことに加え、農産加工品などの農業関連産出額の増加により生産額は増加したものの、主力である野菜の価格が堅調だった平成28年に比べ大幅に低く推移したことなどによるもの。

第2期長野県食と農業農村振興計画の経済努力目標（平成29年度）と比較すると、101.1%の達成率となった。

➤ 農産物産出額（注1）

平成29年の農産物産出額（推計）は2,841億円となり、前年に比べて60億円の減少（対前年比97.9%）となったが、目標の2,800億円を41億円上回る結果となった。

これは、主力であるレタス、ハクサイ等の葉野菜類が豊作基調となり、価格が前年に比べ大幅に低かったことなどによるもの。

➤ 農業関連産出額（注2）

平成29年の農業関連産出額（推計）は242億円となり、前年に比べて26億円の増加（対前年比112.0%）となった。

これは、農家レストラン等の利用者が増加したこと、6次産業化に取り組む農業者が徐々に事業実績を上げ始めたことから、農産加工、観光農業が増加したことなどによるもの。

長野県の農業農村総生産額（長野県農政部推計）

区 分	22年 (基準年)		28年		対前年比 28年/27年	29年①		対前年比 29年/28年	29年② (目標年)	
	億円	構成割合 %	億円	構成割合 %		億円	構成割合 %		億円	構成割合 %
農 産 物 産 出 額	2,738	100.0	2,901	100.0	99.5	2,841	100.0	97.9	2,800	101.5
米	428	15.6	450	15.5	106.6	478	16.8	106.2	473	101.1
麦 類	5	0.2	4	0.1	100.0	4	0.1	100.0	5	80.0
雑 穀 ・ 豆 類	13	0.5	10	0.3	76.9	13	0.5	130.0	16	81.3
野 菜	801	29.3	869	30.0	96.7	768	27.0	88.4	790	97.2
果 実	485	17.7	553	19.1	99.1	574	20.2	103.8	490	117.1
花 き	161	5.9	148	5.1	99.3	142	5.0	95.9	160	88.8
その他の農産物	63	2.3	66	2.3	98.5	67	2.4	101.5	72	93.1
畜 産	288	10.5	311	10.7	101.0	316	11.1	101.6	305	103.6
栽 培 き の こ	495	18.1	490	16.9	98.8	479	16.9	97.8	490	97.8
農 業 関 連 産 出 額	170	100.0	216	100.0	106.9	242	100.0	112.0	250	96.8
水 産	55	32.4	55	25.5	110.0	58	24.0	105.5	57	101.8
農 産 加 工	55	32.4	78	36.1	109.9	98	40.5	125.6	108	90.7
観 光 農 業	60	35.3	83	38.4	102.5	86	35.5	103.6	85	101.2
農 業 農 村 総 生 産 額	2,908	—	3,117	—	100.0	3,083	—	98.9	3,050	101.1

注1) 農産物産出額

平成22年産は、農林水産省大臣官房統計部公表数値である。

平成29年産は現在公表されていないため、県農政部の推計値である。（農林水産省公表の作物別生産量等に、JA等の販売単価等を基に県が独自推計した単価を乗じて算出した）

注2) 農業関連産出額

県農政部の推計値である。

農産物主要品目の平成29年産生産実績

【土地利用型作物】

米	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	34,600	34,400	33,900	33,200	32,700	32,300 (99%)	31,398 (103%)
10a 収量 (kg/10a)	612	632	597	604	624	629 (101%)	621 (101%)
生産量 (t)	211,800	217,400	202,400	200,500	204,000	203,200 (100%)	194,982 (104%)

【29年産解説】

作付面積は、需給調整における生産数量目標が減少したため、前年をわずかに下回った。
 生産量は、登熟期間中の天候に恵まれたため作柄は平年並み(作況指数101)となり、ほぼ前年並みとなった。
 価格は、全国の作柄が平年並みにとどまり、主食用米の適正生産や新規需要米の取組拡大などから需給バランスが安定し、前年産を上回る水準で推移している。

麦	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	2,410	2,560	2,650	2,740	2,820	2,790 (99%)	2,850 (98%)
10a 収量 (kg/10a)	303	298	337	338	333	344 (103%)	410 (84%)
生産量 (t)	7,310	7,630	8,920	9,250	9,400	9,600 (102%)	11,700 (82%)

【29年産解説】

作付面積は、大小麦とも、前年よりわずかに下回った。
 生産量は、前年秋の播種遅れの影響により生育量が少なかったが、暖冬傾向により回復したことから、単収はやや上回り、前年をわずかに上回った。
 価格は、大麦は前年とほぼ同額であったが、小麦は国際相場の影響から値上がりした。

大豆	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	2,370	2,090	2,050	2,120	2,170	2,140 (99%)	2,500 (86%)
10a 収量 (kg/10a)	145	163	165	167	172	163 (95%)	200 (82%)
生産量 (t)	3,440	3,410	3,380	3,540	3,730	3,490 (94%)	5,000 (70%)

【29年産解説】

作付面積は、県産大豆の需要減などから前年よりわずかに下回った。
 生産量は、湿害等の発生が少なく生育は順調に推移したものの、10月の多雨により単収は平年をやや下回り、前年をやや下回った。
 価格は、輸入大豆よりも高い国産大豆の販売状況が低調なことや全国的な生産量の増加により値下がりがした。

そば	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	2,960	3,890	4,060	3,970	4,130	4,190 (101%)	4,000 (105%)
10a 収量 (kg/10a)	75	69	63	59	48	51 (106%)	90 (57%)
生産量 (t)	2,220	2,680	2,580	2,340	1,980	2,140 (108%)	3,600 (59%)

【29年産解説】

作付面積は、田・畑ともに増加し、前年をわずかに上回った。
 生産量は、9月までは天候に恵まれて結実も良好であったが、10月の長雨や台風により収穫作業が遅れ、不作であった前年を上回ったものの平年より少なかった。
 価格は、全国的な作付面積がやや増加したものの、県産そばの需要の高まりから値上がりした。

【果 樹】

りんご	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	8,180	7,980	7,900	7,870	7,800	7,700 (99%)	7,810 (99%)
10a 収量 (kg/10a)	1,771	1,946	2,062	1,997	1,822	1,936 (106%)	2,074 (93%)
生産量 (t)	144,900	155,300	162,900	157,200	142,100	149,100 (105%)	162,000 (92%)

【29年産解説】

作付面積は、生産者の高齢化などにより、前年をわずかに下回った。
 春先の夜間の降雨(一部地域は雹害)でシナノスイートやシナドルチェで胴サビが目立ったほか、台風や冠水の影響で品質低下がみられた。不作であった前年と比較して生産量はやや上回ったが、平年よりはやや減少した。
 価格については前年並みで推移した。

ぶどう	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	2,440	2,430	2,400	2,400	2,420	2,470 (102%)	2,450 (101%)
10a 収量 (kg/10a)	980	1,103	1,229	1,179	1,190	1,049 (88%)	1,094 (96%)
生産量 (t)	23,900	26,800	29,500	28,300	28,800	25,900 (90%)	26,800 (97%)

【29年産解説】

作付面積は、販売が好調な「シャインマスカット」「ナガノパープル」の生産意欲の高まりから新植が増加し、昨年をわずかに上回った。
 品種転換により栽培が増加しているシャインマスカットの生産量が増加したが、巨峰等では曇天や低温による生育の遅れや肥大不足により生産量が減少したため、全体の生産量は前年をかなりの程度下回った。
 価格については、シャインマスカットとナガノパープルがいずれも前年をかなりの程度上回った。

なし	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	1,030	948	905	876	870	859 (99%)	920 (93%)
10a 収量 (kg/10a)	1,825	1,624	1,981	1,886	1,895	1,980 (104%)	2,011 (98%)
生産量 (t)	18,800	15,400	17,930	16,520	16,490	17,010 (103%)	18,500 (92%)

【29年産解説】

作付面積は、生産者の高齢化などにより、前年をわずかに下回った。
 生産量は、好天により着果量が確保されたうえ、日焼けなどの発生も少なく、前年をやや上回った。
 価格については、夏場の天候が悪く需要が少なく、市場への供給が過剰気味となり、前年をやや下回った。

もも	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	1,200	1,150	1,130	1,120	1,100	1,090 (99%)	1,110 (98%)
10a 収量 (kg/10a)	1,400	1,339	1,442	1,420	1,464	1,330 (91%)	1,604 (83%)
生産量 (t)	16,800	15,400	16,300	15,900	16,100	14,500 (90%)	17,800 (81%)

【29年産解説】
 作付面積は、生産者の高齢化などにより、前年をわずかに下回った。
 収穫期に曇天降雨が続き、生産量は前年をかなりの程度下回った。
 価格は、収穫期の悪天から出荷が前倒とともに、糖度不足や下位等級の増加により前年をやや下回った。

【野菜】

レタス	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	5,790	5,900	5,870	5,940	6,030	6,070 (101%)	5,910 (103%)
10a 収量 (kg/10a)	2,961	3,400	3,293	3,224	3,413	3,641 (107%)	3,146 (116%)
生産量 (t)	171,400	200,600	193,300	191,500	205,800	221,007 (107%)	187,000 (118%)

【29年産解説】
 作付面積は、前年の価格が堅調だったことから生産意欲が高く、前年をわずかに上回った。
 生産量は、梅雨明け後の天候不順があったが、全般的に好天による豊作基調となり、前年をかなりの程度上回った。
 価格は、春先をはじめとして全般に作柄良好で推移したため、堅調であった前年を大幅に下回った。

はくさい	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	2,750	2,750	2,730	2,760	2,780	2,790 (100%)	2,500 (112%)
10a 収量 (kg/10a)	7,452	8,150	8,147	8,054	8,248	8,430 (102%)	7,400 (114%)
生産量 (t)	202,700	224,200	222,400	222,300	222,300	235,200 (106%)	185,000 (127%)

【29年産解説】
 作付面積は、前年の価格が堅調だったことから生産意欲は高かったものの、生産者、県、市町村、出荷団体による産地をあげての夏はくさいの適正生産の取組(期間:7月~8月10日)が継続されたことから、前年並みに抑えられた。
 生産量は、5月から7月にかけての高温と適度な降雨により、前年をやや上回った。
 価格は、豊作基調により前年を大幅に下回ったものの、適正生産の取組により維持ができた。

キャベツ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	1,470	1,460	1,500	1,490	1,510	1,530 (101%)	1,600 (96%)
10a 収量 (kg/10a)	4,033	4,370	4,407	4,276	4,457	4,663 (105%)	4,500 (104%)
生産量 (t)	59,300	63,800	66,100	63,700	67,300	71,350 (106%)	72,000 (99%)

【29年産解説】
 作付面積は、前年の価格が堅調だったことから生産意欲が高く、水田や夏はくさいからの転作により、前年をわずかに上回った。
 生産量は、秋口の好天により生育が安定し、前年をやや上回った。
 価格は、豊作基調により低落し、堅調だった前年を大幅に下回った。

ブロッコリー	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	815	825	836	862	871	890 (102%)	850 (105%)
10a 収量 (kg/10a)	930	950	934	956	1,020	1,110 (109%)	953 (116%)
生産量 (t)	7,050	7,840	7,810	8,240	8,880	9,880 (111%)	8,100 (122%)

【29年産解説】
 作付面積は、夏はくさいからの転作やレタスの輪作品目として積極的に導入され、前年をわずかに上回った。
 生産量は、根こぶ病の発生が少なく、前年をかなり大きく上回った。
 価格は、堅調に推移したものの、堅調だった前年を大幅に下回った。

アスパラガス	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	1,300	1,060	1,010	971	940	920 (98%)	1,400 (66%)
10a 収量 (kg/10a)	248	264	250	246	380	302 (79%)	430 (70%)
生産量 (t)	3,450	2,800	2,530	2,390	3,570	2,780 (78%)	5,600 (50%)

【29年産解説】
 作付面積は、生産者の高齢化などにより、前年をわずかに下回った。
 生産量は、春先の低温・干ばつ傾向により、春どり時期が遅れ、前年を大幅に下回った。7月下旬以降の寡日照により夏秋どりも不良であった。
 価格は、品薄傾向により前年をやや上回った。

トマト	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	438	410	404	399	383	375 (98%)	450 (83%)
10a 収量 (kg/10a)	4,940	5,290	5,223	5,163	5,300	4,773 (90%)	6,222 (77%)
生産量 (t)	22,200	21,700	21,100	20,600	20,300	17,900 (88%)	28,000 (64%)

【29年産解説】
 作付面積は、生産者の高齢化などにより、ジュース用トマトが減少したことから、前年をわずかに下回った。
 生産量は、6月の天候不順により裂果、腐敗等のロス果が多く発生し、前年をかなり大きく下回った。
 価格は、需要がある中堅調に推移し、概ね前年並みとなった。

きゅうり	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	425	405	403	403	403	399 (99%)	430 (93%)
10a 収量 (kg/10a)	3,829	3,880	3,747	3,697	3,747	3,810 (102%)	4,418 (86%)
生産量 (t)	16,200	15,700	15,100	14,900	15,100	15,200 (101%)	19,000 (80%)

【29年産解説】
 作付面積は、生産者の高齢化などにより、前年をわずかに下回った。
 生産量は、7月下旬以降の曇雨天・日照不足の影響はあったものの、前年をわずかに上回った。
 価格は、豊作基調であった前年をわずかに上回った。

【花 き】

キク	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	138	130	122	120	117	114 (97%)	111 (103%)
10a 収量 (本/10a)	26,304	27,615	27,459	27,417	26,752	25,526 (95%)	27,297 (94%)
生産量 (千本)	36,300	35,900	33,500	32,900	31,300	29,100 (93%)	30,300 (96%)

【29年産解説】

作付面積は、高齢化の影響等により輪ギクが減少傾向となっており、前年をやや下回った。
 生産量は、4月下旬以降の干ばつの影響で露地作型の定植作業が遅れ、さらに6～7月の夜温の低下などの影響により生育が大幅に遅れ、お盆等の需要期に出荷が間に合わないものがあり、前年をかなりの程度下回った。
 価格は、需要期に出荷できなかったものは大幅な単価安となり、前年をやや下回った。

カーネーション	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	96	92	83	84	83	83 (100%)	88 (94%)
10a 収量 (本/10a)	64,760	60,000	61,064	61,786	63,156	59,371 (94%)	68,182 (87%)
生産量 (千本)	62,300	55,200	50,500	51,900	52,420	49,100 (94%)	60,000 (82%)

【29年産解説】

作付面積は、前年並みであった。
 生産量は、一番花は前年並みの生育であったが、2番花は7月下旬以降の日照不足の影響から生育が停滞し、花のボリューム不足やハダニ類等の害虫の発生が多く見られ、前年をかなりの程度下回った。
 価格は、輸入数量の増加等により潤沢な流通量となり、前年をやや下回った。

リンドウ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	39	37	34	33	32	31 (97%)	38 (82%)
10a 収量 (本/10a)	19,115	15,176	11,763	12,061	12,187	12,109 (99%)	20,263 (60%)
生産量 (千本)	7,493	5,600	4,023	3,980	3,900	3,790 (97%)	7,700 (49%)

【29年産解説】

作付面積は、生産者の高齢化などにより、前年をやや下回った。
 生産量は、生産者の減少と、前年秋の長雨の影響による株落ち、6～7月の低夜温の影響等による生育遅れから、前年をやや下回った。
 価格は、全国的な生育遅れから需要期の流通量が少なく、前年をかなりの程度上回った。

トルコギキョウ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	51	51	47	48	47	48 (102%)	58 (83%)
10a 収量 (本/10a)	26,336	26,078	26,652	25,625	25,744	27,614 (107%)	25,345 (109%)
生産量 (千本)	13,300	13,300	12,500	12,300	12,100	13,310 (110%)	14,700 (91%)

【29年産解説】

作付面積は、一部地域において営農組織の作付拡大が図られ、前年をわずかに上回った。
 生産量は、連作障害対策の徹底により、土壌病害により大幅な減収となった前年に比べ、かなりの程度上回った。
 価格は、春先の低温の影響で暖地物の出荷が遅れ、本県産と重なったことから、出荷開始時の6月は安値傾向であったが、秋以降は堅調な価格で推移し、前年をわずかに下回った。

アルストロメリア	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	25	27	25	24	24	24 (100%)	28 (86%)
10a 収量 (本/10a)	72,510	75,000	83,871	81,481	78,333	80,000 (98%)	78,571 (102%)
生産量 (千本)	18,200	20,100	20,800	19,800	18,800	19,200 (102%)	22,000 (87%)

【29年産解説】

作付面積は、前年並みであった。
 生産量は、秋の長雨の影響を受けた前年に比べ順調に経過したことから、前年をわずかに上回った。
 価格は、春先の市場流通量が多く、大幅な単価安となったが、夏以降は回復し、前年をわずかに下回った。

鉢花類	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
作付面積 (ha)	87	87	86	85	85	85 (100%)	77 (110%)
生産量 (千鉢)	21,010	21,190	20,530	20,870	20,810	21,380 (103%)	18,700 (114%)

【29年産解説】

作付面積は、一部経営転換等により前年をわずかに下回ったものの、苗物類の面積が増加し、前年並みとなった。
 生産量は、シクラメンや洋ラン類の生産は経営転換等により減少したが、その他鉢花や苗物類は品目転換等により増加し、前年をやや上回った。
 鉢花類全般に全国的に潤沢な流通量があり、価格は前年をやや下回った。

【きのこ】

えのきたけ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
生産量 (t)	86,070	83,903	83,470	81,213	82,325	86,712 (105%)	94,426 (92%)

【29年産解説】

生産量は、生産者の規模拡大への増産意欲が高まり、前年をやや上回った。
 価格は、消費量の低下、夏場の生産調整不足等が影響し、前年をかなりの程度下回った。

ぶなしめじ	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
生産量 (t)	47,868	46,154	47,382	49,864	49,807	49,733 (100%)	55,746 (89%)

【29年産解説】

生産量は、前年並みであった。価格は、消費量の低下があるものの、生産量の抑制に加え、冬場の野菜価格の高騰により消費が促進されたため前年並であった。

【畜産】

乳用牛	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
頭数	19,800	18,300	17,600	16,600	16,300	15,600 (98%)	19,200 (81%)
生産量 (t)	116,345	108,650	106,587	106,056	102,739	97,419 (95%)	117,400 (83%)

【29年産解説】

飼育頭数は離農などにより、前年をわずかに下回った。また生産量も飼養頭数の減少に伴い前年をやや下回った。乳牛1頭当たりの生乳生産量は前年並みであった。価格も前年並みであった。

肉用牛	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
頭数	29,500	26,400	24,200	23,000	22,100	22,200 (100%)	28,500 (78%)
生産量 (t)	7,064	6,354	6,144	5,548	5,119	5,230 (102%)	6,552 (80%)

【29年産解説】

飼養戸数は減少したものの、飼養頭数は繁殖雌牛の増頭により、全体としては前年並であった。肥育素牛の高騰等の影響から出荷頭数はやや減少したものの、生産量は1頭あたりの枝肉重量の増加により、全体としては前年をわずかに上回った。枝肉価格は、全国的な生産量の減少等から依然として高値を維持しているものの、前年をやや下回った。

豚	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
頭数	75,000	73,800	74,300	74,000	74,000	74,000 (100%)	75,900 (97%)
生産量 (t)	11,518	11,908	11,213	11,158	11,097	11,037 (100%)	11,530 (96%)

【29年産解説】

飼養頭数及び生産量は、前年並みであった。価格は堅調に推移し、ほぼ全ての月(11か月)で前年を上回った。

鶏	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績 (H29/H28)	H29 目標年 (実績/目標)
羽数 (千羽)	1,403	1,525	1,441	1,401	1,354	1,271 (94%)	1,375 (92%)
生産量 (t)	15,700	14,645	14,049	13,641	13,231	13,297 (100%)	14,017 (95%)

【29年産解説】

採卵鶏は離農などにより、飼養羽数及び生産量ともに減少したが、ブロイラーは需要の増加により、生産量は増加したため、全体の生産量は前年並であった。

農用地と農業者の推移

【農用地の推移】

(単位:ha)

耕地面積	H22 (基準年)	H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28 実績	H29 実績
水田	55,400	54,700	54,500	54,000	53,500	53,100
畑	55,800	55,700	55,500	54,900	54,500	54,200
普通畑	35,300	36,600	36,600	36,100	35,900	35,700
樹園地	16,200	15,800	15,600	15,500	15,400	15,200
牧草地	3,350	3,320	3,310	3,300	3,300	3,280
合計	111,200	110,400	109,900	108,900	108,000	107,300

資料:「耕地及び作付面積統計」

(単位:ha、%)

耕作放棄地	経営耕地 面積 A	耕作 放棄地 B	耕作 放棄地率 B/(A+B)	全国の 放棄率
H22 (基準年)	74,150	17,146	18.8	9.8
		10,892	12.8	5.6
H27 実績	69,761	16,776	19.4	10.9
		10,280	12.8	5.9

資料:「農林業センサス」(上段は土地持ち非農家を含む)

【農業者の推移】

(単位:戸、%)

農家数	総農家数	経営耕地面積規模別農家数					
		販売農家数		0.5ha未満	0.5~1.0	1.0~2.0	2.0ha以上
		専業農家					
H22 (基準年)	117,316	62,076	16,742	74,124 (63.2)	25,067 (21.4)	12,737 (10.8)	5,388 (4.6)
H27 実績	104,759	51,777	17,229	68,115 (65.0)	20,316 (19.4)	10,939 (10.4)	5,389 (5.2)

資料:「農林業センサス」、()内は構成比

(単位:人、%)

基幹的農業 従事者数	男						女						合計					
	15~29歳		30~49歳		50~59歳		60歳以上		15~29歳		30~49歳		50~59歳		60歳以上		合計	
	小計	65歳以上	小計	65歳以上	小計	65歳以上	小計	65歳以上	小計	65歳以上	小計	65歳以上	小計	65歳以上	小計	65歳以上		
H22 (基準年)	643 (0.8)	3,344 (4.0)	4,146 (5.0)	36,662 (44.0)	31,768 (38.2)	44,795 (53.8)	191 (0.2)	2,548 (3.1)	5,141 (6.2)	30,572 (36.7)	25,709 (30.9)	38,452 (46.2)	834 (1.0)	5,892 (7.1)	9,287 (11.2)	67,234 (80.8)	57,477 (69.0)	83,247 (100.0)
H27実績	625 (0.9)	3,272 (4.4)	3,144 (4.3)	33,108 (45.1)	29,034 (39.5)	40,149 (54.7)	203 (0.3)	1,965 (2.7)	3,515 (4.8)	27,635 (37.6)	23,659 (32.2)	33,318 (45.3)	828 (1.1)	5,237 (7.1)	6,659 (9.1)	60,743 (82.7)	52,693 (71.7)	73,467 (100.0)

資料:「農林業センサス」、()内は構成比